臨床レポート

熊本県 パール歯科・矯正歯科クリニック
前田 明浩

Piezosurgery® を活用したコルチコトミーの症例

今回は上下顎にコルチコトミーを併用して矯正治療を行った症例をご紹介致します。
コルチコトミーとは歯列矯正の一手法であり歯槽骨皮質骨切除術とも呼ばれます。
このコルチコトミーはまだ一般に広く行われている治療ではないと思いますが、行うに当たってはまず十分な歯周外科の知識と手技を持ち、良好な矯正医との協力関係を築き、できるだけ自身も矯正治療に対する知識や技術を備え、そして CT で分析、治療計画を立て、ピエゾサージェリーを使用する事で始めて安全、安心に手術を行う事が出来ると考えています。
さて、一般的に言われている欠点と利点を以下に述べます。

欠点
1. 外科処置が必要である
2. 治療費が高くなる
3. 当初通院頻度が高くなる
等

利点
1. 治療期間が短く出来る、或いはコントロール出来る
2. 矯正治療後の歯の安定が良い。(リラップスしにくい)
3. 移動範囲が大きくできる
4. 矯正治療中の歯の移動に伴う痛みが出にくい
5. 歯根吸収が起こりにくい
等があります。

これらを踏まえて患者様の希望に沿うようでしたらコルチコトミー併用の矯正治療は有効なオプションであると考えています。
今回は上下顎にコルチコトミーを併用して矯正治療を行った一症例を報告致します。

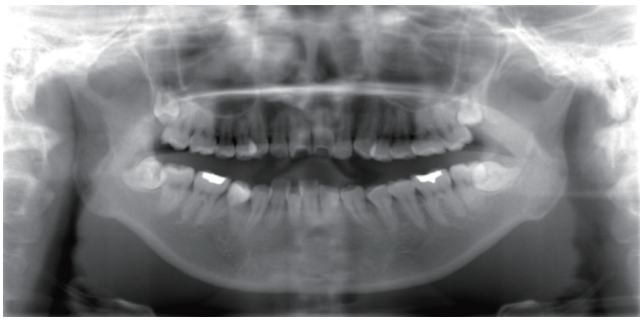
症例　22 歳 女性
主訴　歯並びが悪いので治して欲しい
希望　仕事が忙しく (看護師) 通院が大変なので出来るだけ短い治療期間で矯正治療をして欲しい
診断　開咬を伴う 1 級叢生

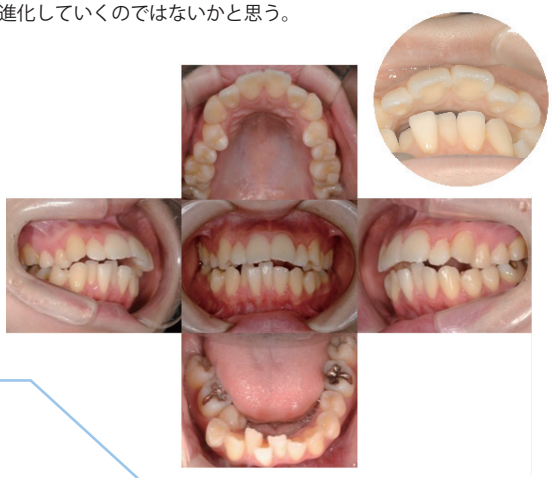
治療計画
矯正治療前に歯肉炎、カリエスの治療を行う。
その後静脈内鎮静法下で片顎ずつコルチコトミーを行い、マルチブラケットによる矯正治療を進めて行く。上下左右第一小臼歯は抜歯する。
一般的な矯正治療の場合の治療期間予測は 2 年半 ~3 年、コルチコトミー併用の場合は 1 年 ~1 年半と予測した。

治療経過
矯正前治療の後、IVS 下でまず下顎のコルチコトミーを行った。オペ後即日矯正用ワイヤーをセットした。
術後の腫れ、痛みはほとんど出なかった。
患者様の仕事の都合上一ヶ月半後に同様の処置を上顎に行った。
尚コルチコトミーと同時に矯正用インプラントの植立を上下顎に行った。
通法に従い矯正治療を進め一年半後に矯正装置をリムーブした。
咬合力が強く特に左側下顎臼歯のコントロールに時間がかかったため結果的に一年半の動的治療期間となった。
しかし術後の歯列も安定しており治療期間の点も含め患者様満足度は高かった。

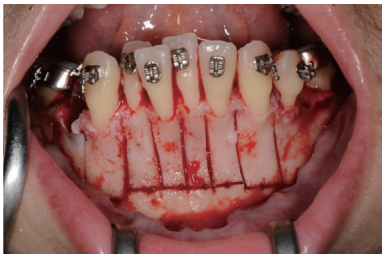
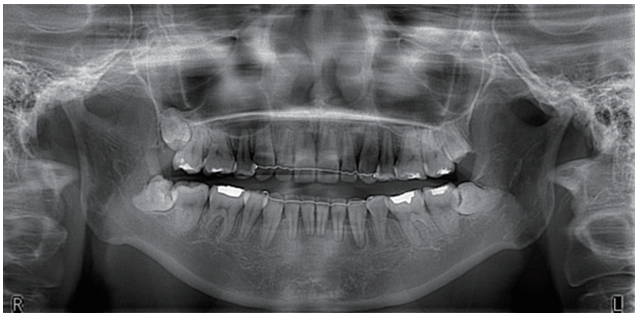
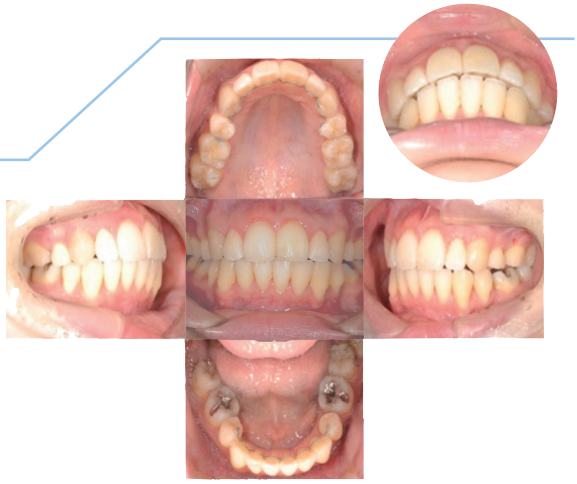
考察
コルチコトミー併用の矯正治療は幾つかの欠点も有するがしっかりとした準備 (CT やピエゾサージェリー等) と技術、患者様への説明と同意があれば従来の矯正治療の欠点を補える一つの選択肢となり得ると思われる。
コルチコトミーも今後は骨の薄い部分への骨移植なども同時に行われていったりと、より進化していくのではないかと思う。

術前→





Piezosurgery® を使用したコルチコトミーの術中



術後→